

13.11.02~04 八経ヶ岳・山上ヶ岳山行報告書

M3 荒川 晶

① 参加メンバー

M3 荒川(単独)

② コースタイム

11/02(土) : 行動時間 7 時間 50 分

下市口駅 08:20~09:05 天川川合 09:15~10:15 栃尾辻 12:00~13:40 高崎横手 13:45~13:55 狼平避難小屋 14:15~15:05 弥山小屋(幕営)

弥山小屋 15:25~15:40 八経ヶ岳 15:45~16:00 明星ヶ岳 16:05~16:25 八経ヶ岳 16:30~弥山小屋 17:05

11/03(日) : 行動時間 8 時間 55 分

弥山小屋 05:45~行者還トンネル分岐 07:20~09:00 行者還小屋 09:15~行者還岳 09:45~10:50 七曜岳 11:00~12:55 大普賢岳 13:15~14:10 阿弥陀ヶ森 14:20~小笹宿 14:50(避難小屋泊)

11/04(月) : 行動時間 5 時間 40 分

小笹宿 07:50~08:35 山上ヶ岳 09:00~10:00 稲村小屋 10:10~10:35 稲村ヶ岳 10:40~10:55 大日岳 11:00~11:15 稲村小屋 11:35~12:20 法力峠 12:30~洞川温泉 13:30

③ 概要

以前から一度歩いてみようと思いながら、中々機会のなかった地元奈良県南部の山を今回歩いてみることにした。主な山脈は大峰山脈と台高山脈の 2 つ。日程や歩きやすさなどを色々と考慮した結果、今回は熊野古道奥駈道として、古代からの信仰を集めてきた大峰山脈の主脈ルートを歩くことにした。はじめは吉野方面から稲村ヶ岳・大普賢岳・弥山・釈迦ヶ岳の 4 ピークを踏みながら 3 泊 4 日でゆっくり時間を掛けて歩こうかと思っていたのだが、下山路として想定していた前鬼口のバスが災害により通行止め、また私自身にも個人的な用事が入ってしまったため、結果的に日程を 2 泊 3 日として弥山より北の山々を周回するようなコースを選択。折しも低気圧の通過とタイミングが被ってしまい、天候にはあまり恵まれなかったのが残念だったが、信仰登山として賑わう山の姿を垣間見ることが出来、充実感のある山行となった。

④ 本文

奈良市の実家から近鉄電車を乗り継いで下市口駅へ。連休初日の土曜日の朝とあってか 20 名ほどの登山客で駅前には賑わっている。バスの発着案内の方々が前鬼口のバスが運休していることを告げていて、知らずにやってきた方々が何名か困惑していた。HP で小さく表示されていたのみなので分かりにくかったことだろう。

やがてやってきた急行バスに乗車。11 月ともあってか全員が楽に座れる程度の混雑。停車バス停は少なくなって、国道から枝道に入る回数も少なくなるので普通のバスだと 1 時間ほどのところを 45 分ほどで天川川合へ。案内所で少々休憩を入れて出発。溪谷に掛かる吊り橋を渡って民家の軒先から登山道へ。

始めはスギの人工林の中の少しばかりの急登が続く。途中で何本かの送電線をクロスし、地図上での大体の位置を推測。展望もよくてしばしの休憩も挟む。1時間少々歩くと林道と合流。地図上では繋がっているのだが一般車はここまでは入れないようだ。秋の日差しを浴びた紅葉がきれい。この辺りを過ぎると尾根はなだらかになり、小さなアップダウンを繰り返すようになる。小休止を何度か繰り返しながら歩いて、12:00頃に枳尾辻を通過。避難小屋があるようだったがとても使用に耐える状況ではなかった。ここから幾つかある小ピークを巻くようにして歩く。標高も上がってきて早くも紅葉は終わっている様子。時折日帰りで弥山を往復してきた様子の人とすれ違う。しばらく歩くと案内板があつて自然観察関係かと思えば高崎横手だった。ここから少々下って10分ほどで狼平の避難小屋。上北山村の職員の方がアンケートを行っていたので回答。地元の杉で作った割り箸をいただく。中は快適そうな2階建て。昼食も兼ねてしばし休憩。沢の水は飲めるのか心配だったが料理用として大目に汲んでおく。

ここからは自然保護の意味合いもあつてか丁寧に整備された木道を歩く。苔むした森の雰囲気が良い。急登を終えると少し曇り始めてきたが八経ヶ岳の姿が時折見える。アルプスの山々に比べれば随分と地味ではあるが端正な佇まいは好印象。1時間ほど歩いて弥山小屋に到着。ここでテントの手続きを行って、小屋の近くにテントを張った。



洞川溪谷に掛かる吊り橋を渡る。紅葉は見頃を迎え始め、来週末がピークの様子。



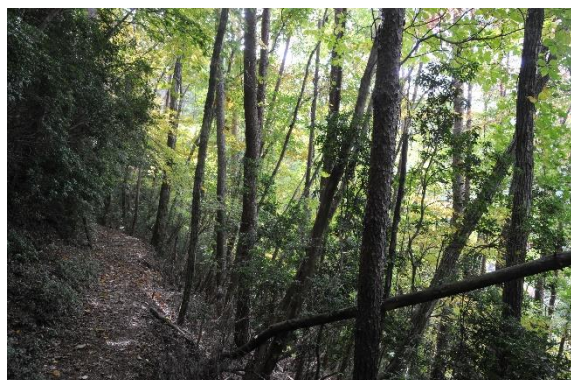
始めは人工林の中の急登を歩く。



(左上)樹林帯の中なので展望はない。時折交差する送電線との交点から展望がのぞく。

(左)少しずつ広葉樹林も広がり、登山道も明るくなる。

(上)特徴的な山容の大日山、稲村ヶ岳を右方に望む。

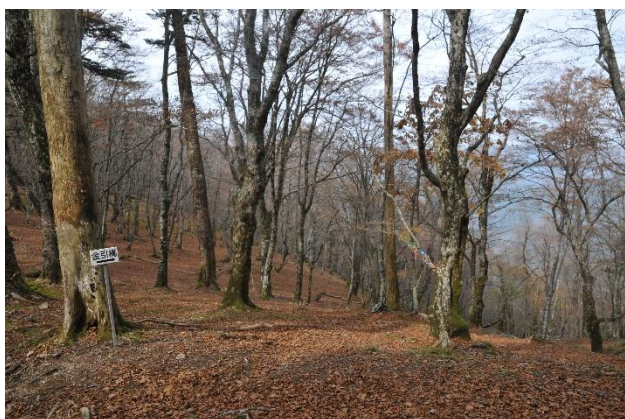




林道との交点付近から。紅葉が素晴らしい。



天川川合から 3 時間余りで栃尾辻に到着。避難小屋はあるものの中は土敷であった。



栃尾辻を過ぎると葉を落とした広葉樹林帯をゆく。



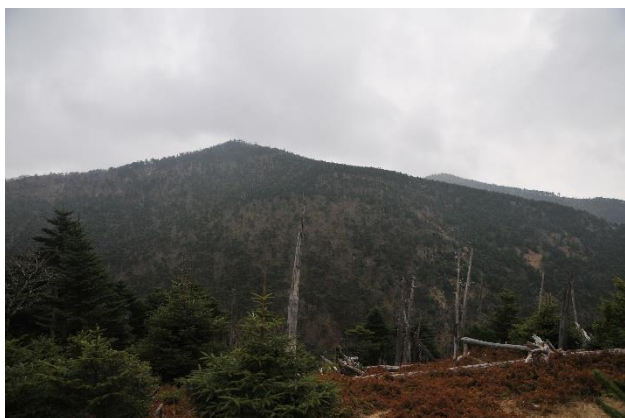
やがて高崎横手に到着。明星ヶ岳方面への登山道への分岐がある。

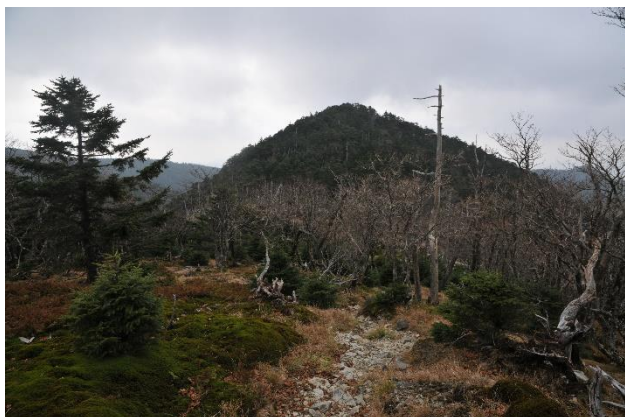


(左上)狼平避難小屋。2 階建てで広さもあり、快適に過ごせそうである。

(上)ここからしばらくは木道を歩く。シダ・苔などが盛んに生えて大峰らしい雰囲気。

(左)やがて縞枯れの木々の向こうに八経ヶ岳が姿を現す。奥に見えるのは明星ヶ岳。



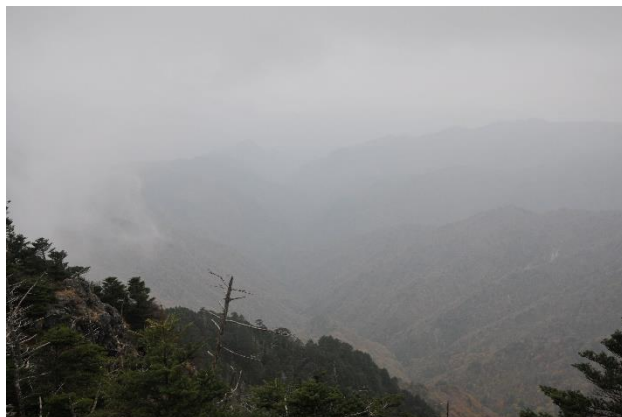


正面には弥山が次第に近づいてくる。縞枯の風景の中を歩くこの区間は印象深かった。



大きな収容力を持つ弥山小屋。シーズン中は多くの信仰登山客でにぎわうのだろう。

テント設営後は時間が少々気になったが、明日以降の天気や行動時間のことも考えて八経ヶ岳・明星ヶ岳を往復することにした。この道が釈迦ヶ岳を通じて熊野本宮まで繋がっているのかと思うと感慨深い。空荷であったからかコースタイムよりも早いペースで八経ヶ岳に到着。展望を期待したが、ガスが早くも濃くなり始めており、少々粘ってみたが晴れそうにないので、そのまま明星ヶ岳へ。途中ではシカよけのゲートをくぐる場所もあり、ここでも食害が問題になっているのだと感じる。縞枯の景観の素晴らしい明星ヶ岳でしばし時間をつぶした後に、再び八経ヶ岳経由で弥山小屋に戻り、弥山の山頂も往復。時間は17時ごろと、早くも夕闇の迫る時間となったので、早々にテントに戻り夕食、そして18時過ぎには就寝した。



(左上)オオヤマレンゲ保護のためのシカ防止柵。この他にも何箇所かで見かけた。

(上)ガスがかかり始めておりコントラストは薄い。白川又側川方面の展望。大峰地域の山深さを感じさせられる。

(左)八経ヶ岳山頂にて。日本百名山をまた一つ登頂。

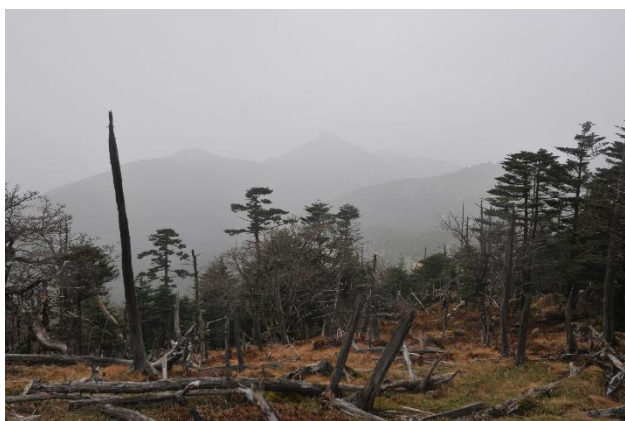




明星ヶ岳付近から南方の展望。機会があればこの先も歩いてみたい。



明星ヶ岳山頂。目立たないが背景の縞枯の景観が印象的。



ガスの切れ間から遠方を望む。



縞枯れの中、ところどころ露岩のある登山道を歩く。



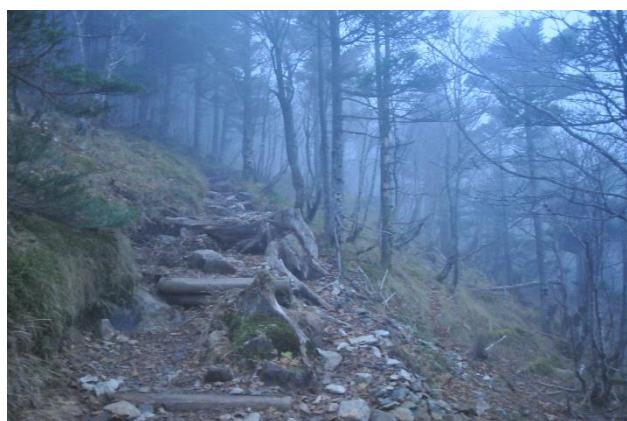
弥山山頂には鳥居があり、信仰の山であることを伺わせる。



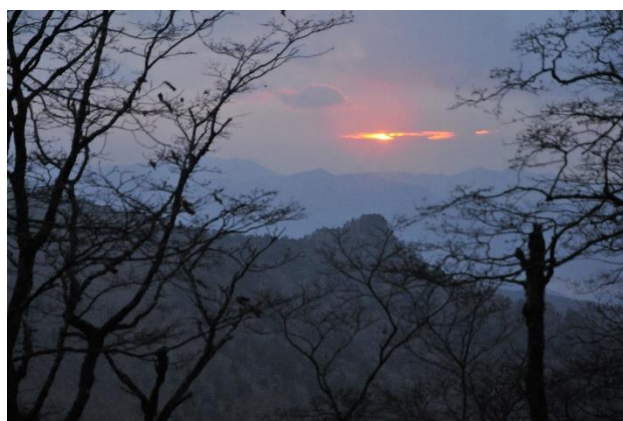
弥山小屋付近から山頂方面への登山道を振り返る。

翌朝、この日は行程がそこそこ長いので早めに起床。一晩中、上空ではやや強い西風が吹いていて低気圧が近づいてきているのを感じる。弥山山頂付近もガスっていたので、ご来光は望めなさそうなのでまだ暗い 05:45 に出発。ヘッドライトをつけて、弥山東側の斜面を下る。こちらにも植生保護のためか木製の階段が整備されている。ガスは山頂付近だけのようで、少し下ると大普賢岳など、木々の隙間から今日こ

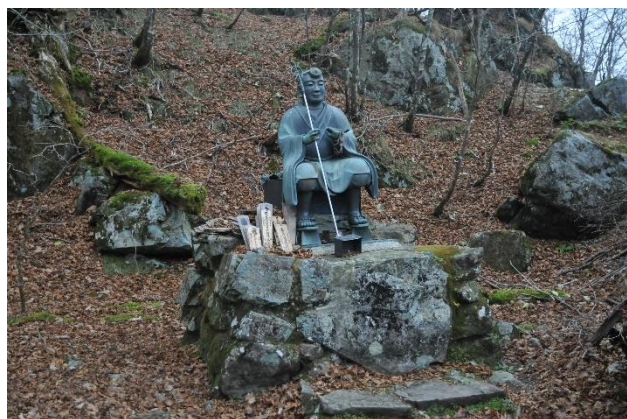
れから歩くルートが遠望されて、大峰の山の深さを感じる。06:15 頃だったか、東の空の雲間から一瞬の間太陽が顔を出す。今日以降は天気は期待できないと思っていただけに不思議と神々しく感じられてしばし立ち止まって眺めてしまった。出発してから 1 時間ほどで聖宝の宿跡で小休止。ここから弁天の森など、小ピークを幾つか越えながら行者還トンネルからの登山道との合流点、奥駈出合を目指す。少しずつトンネル入り口から来た様子の日帰り登山客とすれ違うようになる。奥駈出合を過ぎると通過する登山客の数も減るせいか、膝下の高さの笹原の中の、小さな道を歩くようになる。一のタワにも小さな避難小屋があったが、この小屋も廃屋に近い状態だったが、この付近で少々降り始めた雨を凌ぐにはちょうどよかった。ここからも小さなピークを繰り返して、1 時間ほどで行者還避難小屋に到着。一見して立派な避難小屋で、2 階建て、計 20～30 名は泊まれそうな程の収容力であった。



夜明け前の登山道を歩く。人もおらず森閑とした雰囲気味わった。



台高山脈越しに一瞬だけ太陽を眺める。不思議な瞬間であった。



(左上)聖宝の宿跡にて。小さな仏像が鎮座されていました。

(上)時折小雨のぱらつく中、どことなく奥秩父を想起させる風景の中を歩く。

(左)奥駈出合にて、ここまでは登山客もおおいせいかよく整備された道が続く。





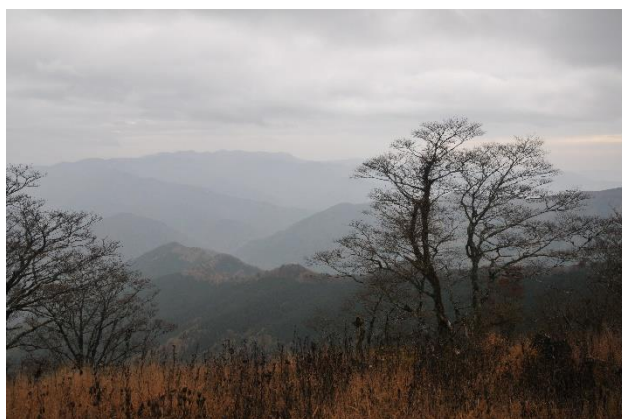
奥駈出合を過ぎると人気も少なくなり、静かな山歩きとなる。



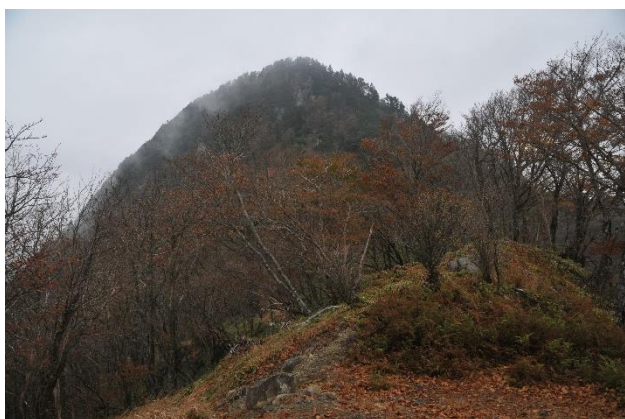
一のタワ付近から台高山脈方面を望む。展望地は多くはないが、何箇所かは良い場所がある。



一のタワの避難小屋。中はやや荒廃気味。



この付近にも展望地が。台高山脈などの展望。



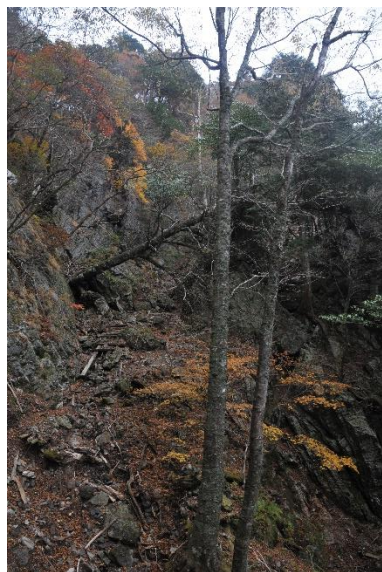
行者還岳が眼前に近づく。南方からは急峻に見えるが実際は東面を巻いて北側からアプローチ。



立派な行者還避難小屋。昨日も何名かがこの小屋を利用したようだ。

ここでしばしの間休息。休んでいる間に 1 人の登山客が足早に通過していった。一旦下ったあと、急な岩場が近づいたと思ったところで水場があった。ここから避難小屋まで水を引いていて、避難小屋では貯留水になるので要煮沸とのことだが、ここは流水なのでそのまま飲用可能。水を補給してから出発。さらに 15 分ほど歩いて行者還岳への枝道が分岐。6.7 分ほどで山頂へ。展望はあまりなく目立たない山。引き返して来たところで昨日から度々抜きつ抜かれつした 4 人グループとしばし立ち話。やはり前鬼を

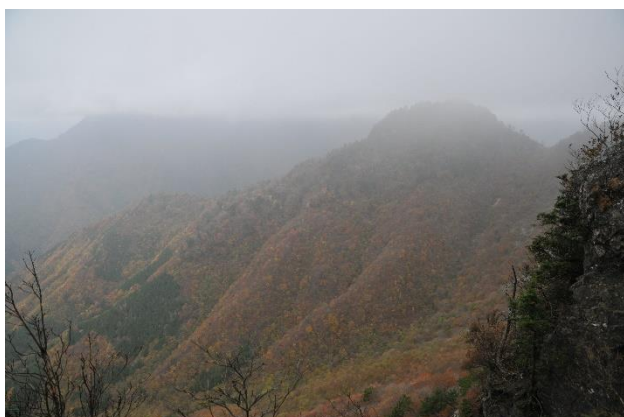
目指していたがバス運休で、女性もメンバーに含むので今日は和佐又に下山するとのこと。そうか和佐又方面からのアプローチも悪くはないのだなと思いながら七曜岳方面への道を目指す。少しずつ岩場鎖場が増えてやや歩きにくくなる。正面遠方に大普賢岳のギザギザの山並みが見える。幾つかの鎖場を超えて七曜岳に到達。大分ガスが濃くなってきたがオソゴエ谷方面の展望がまずまず。紅葉は大方終わっていた様子だった。この先も少々荒々しい岩場鎖場を何箇所か抜ける。途中には池の見えない七つ池や、緊急時の幕営によさそうな稚子泊、また水太硯を經由して大普賢岳へ。この区間では何回か和佐又から来た日帰り登山客とすれ違う。ここまで来ると標高や天気の変化もあってガスってしまい眺望はなし。



(上)行者還岳付近は所々に巨岩も。
(左)岩場を巻いて登山道は付けられている。
(中央)難所は梯子が掛けられていた。



(左上)行者還岳頂上にて。錫杖が1本佇む。
(上)山頂付近ではシャクナゲの群生が。初夏のころは花が見頃になることだろう。
(左)登山道には岩がゴロゴロしている。



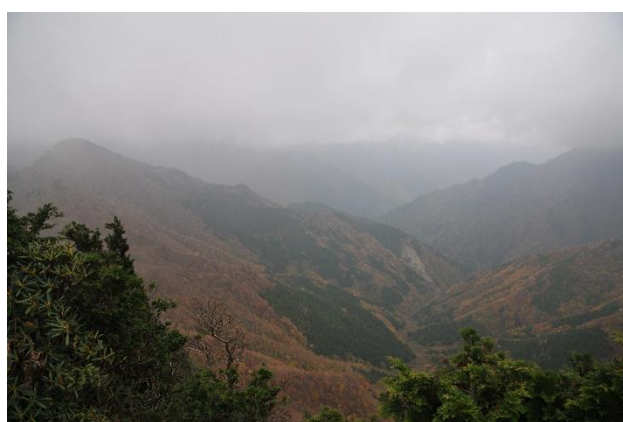
オソゴエ谷方面の展望。雲が次第に厚くなってきた。



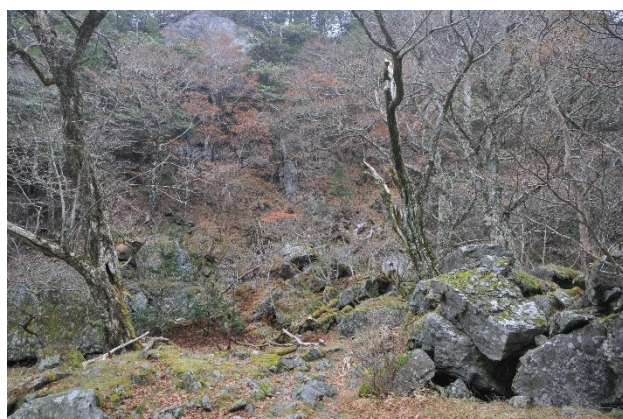
七曜岳手前の長い鎖場。下りだと少々苦勞するのかもしれない。



七曜岳山頂にて。岩がゴロゴロしていて狭い山頂。誰にも出会わなかった。



オソゴエ谷方面への展望再び。



(上)稚子泊付近。幕営適地だが周囲は岩がゴロゴロしている。

(左上)深い窪地となっている七つ池付近。水のある様子はあまり感じられなかった。

(左)ガスの中大普賢岳に到着。ここでも誰とも会わず。



大普賢岳からは一転、苔むした樹林帯の中を歩く道になる。下りともなるのでペースも速め。沢沿いに間違っ下らないようにルートには気を付けながら歩く。登り返しを少々歩くと、阿弥陀ヶ森へと到着。ここから先山上ヶ岳方面は現在でも日本に唯一残る女人結界。人の通れる大きさの門と、女人結界の由来と現状についての日本語と英文の説明が書かれた看板があった。山上ヶ岳が信仰の対象であることを改めて実感する。なお吉野奥駈道はこの女人結界含めて世界遺産に登録されている。

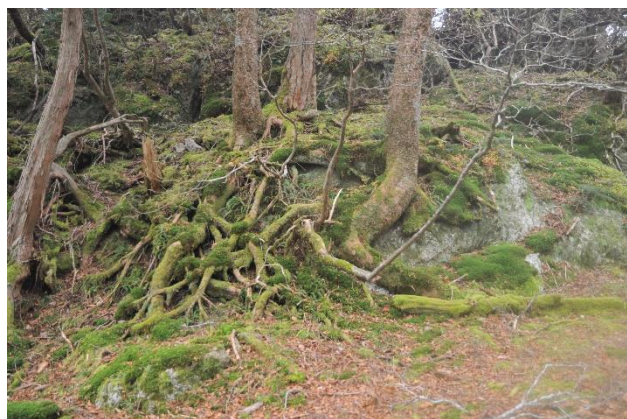
結界の門をくぐって濃いガスの中を歩く。15分ほどして谷筋に降りはじめたと思ったところに、今日の宿となる小笹の宿に到着。ここの避難小屋は小さくて定員は5名程かといったところ。一応挨拶だけはしておこうと思いい中を覗いてみると丁度先客は4名。迷ったが先着の方々の好意もあり場所を開けてもらって避難小屋泊とすることが出来た。15時前だったが皆吉野・洞川方面からの縦走者で、中には熊野本宮目指して歩いているという方も。早めに出発したおかげでこの日はほとんど雨に降られることなく行程を終了させることが出来た。



紹介が遅れたが天理大学のWV部がルート上そこかしこに黄色い看板を設置。お世話になりました。



再びシャクナゲで賑わう登山道。ガスっているがそれはそれで趣深い。



(左上)苔蒸した木々の中を歩く。じっと見ても見飽きない景色。

(上)女人結界門。今なお続く信仰の深さを実感する。

(左)小さな小笹の宿の避難小屋。定員は5名。この後弥山方面から来た2名は止む無くテント泊となった模様。

この日は夕方 5 時過ぎには同宿の方々に就寝。夜半過ぎから少しずつ雨が降り始め、深夜には激しい雨音で目が覚めるほどであった。最終日は 4.5 時間の行程なので多少出発が遅くなくても良かったので、6 時前、他の方々が起き始めるのに合わせて起床、朝食。雨がまだ少々降っていたので、待てば次第に小降りになってくるだろうと思いながら弥山方面へと出発する登山客の方々を見送った後、何故か最後まで残っていた熊野本宮を目指される方とエスケープルートの話をする。

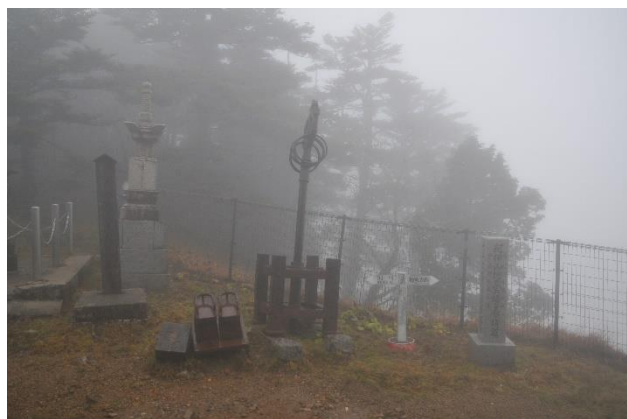
温泉に入る時間を考えてお昼過ぎには下山したかったので、熊野本宮さん(仮称)を残して 8 時前に出発。雨は小降りではあるもののまだ降っていたので雨具を付ける。今日は濃いガスの中を歩き、視界はわずか 5 メートルほど。山上ヶ岳目指して歩いていると似たような景色が続く、ひょっとしたら同じところをぐるぐる回っているのではないかという錯覚に陥る。それでも 1 時間ほどで山上ヶ岳山頂に到着。折角の訪問なのではないかと思い付近の宿坊などを少しばかり見学(もちろん皆閉まっているが…)。ガスが濃くて少し離れただけでも建物の写真すらまともに撮影できないくらいである。それでも 30 分ほど休憩して、山頂の碑を撮影。ここでも誰にも会わず、稲村小屋に向けて歩く。始めは結構な勾配のある下り坂。鉄梯子などもあり足元が滑りやすいので慎重に。ひとしきり下って鞍部に達したところがレンゲ辻。ここが洞川から山上ヶ岳方面への女人結界の入り口となっており、昨日見たものと同趣旨の看板と結界門が設置されていた。ここから少々上り返したのちに等高線に沿ってしばらく歩くと稲村小屋。水場は少々離れた所から取っているらしくこの一帯では食事幕営禁止の旨の張り紙を見かけた。



小笹の宿付近。修験場になっているらしく他にも鳥居などもあった。



山上ヶ岳目指して歩く。コケ・シダに溢れた深い森の中。



山上ヶ岳付近にて。ガスが濃い。



山門まで降りてみたが、人気は全くない。



山上ヶ岳山頂。お花畑と良い眺望が見込まれるようだが、この日はどちらもダメだった。



山頂付近に散在する宿坊。シーズンオフなのでいずれも休業中。



レンゲ辻にあった女人結界門。阿弥陀ヶ森にあったものと大方同じ。

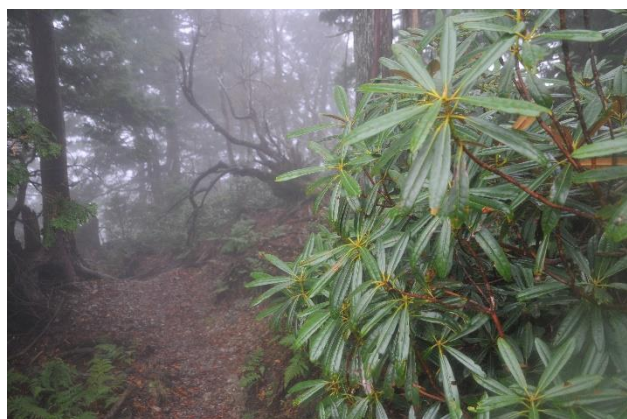


赤い屋根の稲村小屋。この付近で、小笹の宿以来初めて人と出会った。

幸いにも稲村小屋は登山客のために建物の中を開放していたので、ここでしばし休憩を入れて、行動食を挟む。荷物を置いてサブザックを取り出して稲村ヶ岳、大日山を往復することにする。濃いガスで、稜線越しには強い風が吹いているのが音で分かるが、登山道自体は平穏。軽快に飛ばして 20 分ほどで稲村ヶ岳。ここには立派な展望台があるが、ガスが濃くて何も見えないのが残念。長時間滞在したところで状況が改善しそうになかったので足早に撤退して、大日山へ。稲村ヶ岳へ向かう登山道の枝道を歩く。途中滑りやすい鉄製の橋と少々岩場があったが難なく抜けて山頂へ。ここでも少し休憩を入れて、再び稲村小屋まで戻ってきた。小屋入口の看板には往復 1 時間 30 分とか書かれていたが、山頂で時間を潰さなかったせいか 1 時間も掛からずに戻ってきてしまった。

荷物をまとめて出発。この頃には雨も止んできた。小学生のボーイスカウトのような集団登山を懐かしい思いで眺めながら出発。ここからは栃尾辻まで緩やかな下り。山上ヶ岳付近とは違って日帰り登山客風の人と何度かすれ違う。樹林帯なので展望は宜しくないが時折雲が切れて日差しも覗くようになり、天候が少しずつ回復傾向にあるのかなと思う。1 時間少々で栃尾辻に到着。ここで最後の休憩。深い針葉樹林の森の中を足元に注意しながら下る。ここから先は枝道が幾つかあり、いずれも同じ道路に下りることになるのだが、道路の車の音が聞こえてきて緊張感も解けてしまったので一番早く道路に降りる母子堂へのルートを下って下山。無事に降りて来られてよかったなあと思いながら洞川温泉まであと一息、

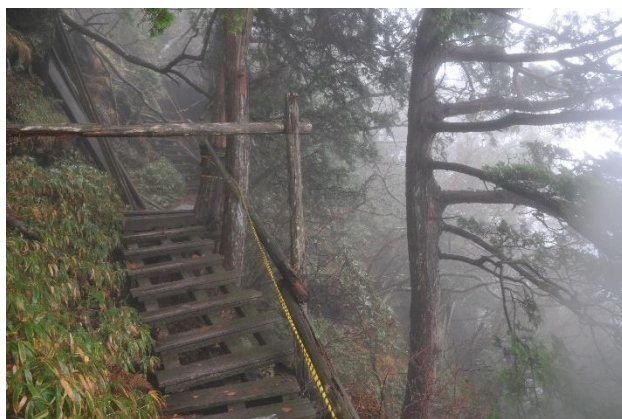
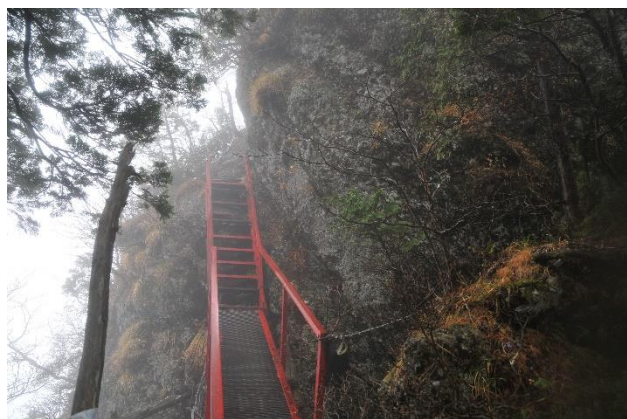
と思えばここから先が意外と長く、30 分ほど掛かって漸く洞川温泉のバス停に到着。バスの発車まで 1 時間半ほど時間があるので、観光客の姿もちらほらす中、歩いて 5 分ほどの温泉で一服。「湯船が狭い」との評判があつたが、確かに設計されている大きさに対して訪問客がやや過多であるような印象を受けた。その後昼ごはんでもと思ったが手ごろな店は皆昼休憩に入ってしまったので余った行動色などを齧りながら路線バスに乗車。それなりの乗客がいたので増便の直行便を出してもらい、おかげで下市口から予定より少々早い電車に乗ることが出来た。実家に立ち寄ってから帰ろうかとも思っていたのだが、面倒くさくなり京都まで近鉄電車、ここから新幹線で早々と帰宅の途に就いた。



シャクナゲを見かけた稲村ヶ岳までの登山道。日帰り登山客も多いようでよく踏まれていた。



稲村ヶ岳山頂にて。展望台があるがガスっており悲惨。

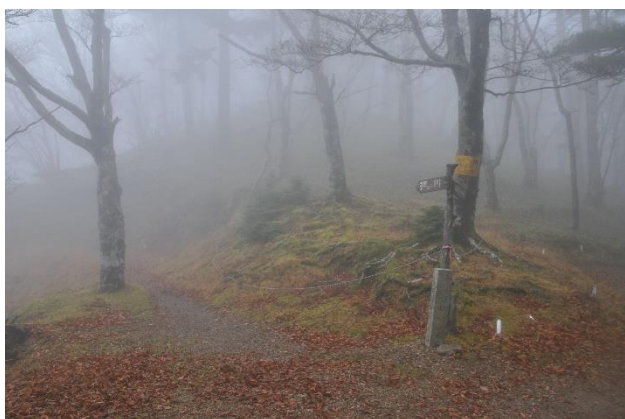


(左上)大日山に向かう登山道。難所には階段、梯子、ロープなどが設置されていた。

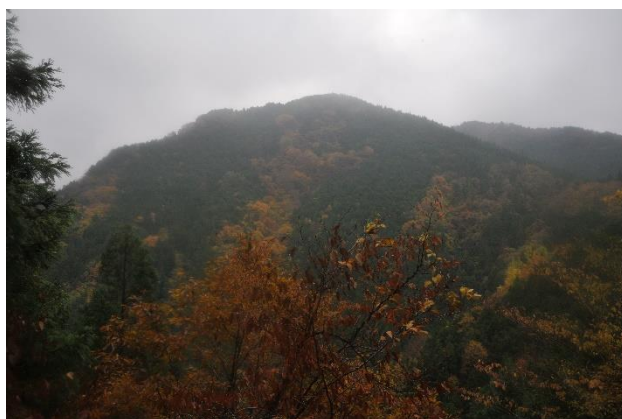
(上)同上。こちらは木製の階段。

(左)大日山山頂。小さな祠と仏像、信仰の対象であることを感じさせられる。





稲村小屋から法力峠に向けて歩き出す。ガスは少しずつだが薄くなってきた。



法力峠付近まで来るとガスの切れ間もしばし。山上ヶ岳方面の展望。



法力峠からは丁寧に整備されたスギ林の中を下る。枝道が幾つかあり、一番短いルートを選んでしまった。



母公堂に下山する。無事に下山できたことを感謝した。